

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成23年度第2回スポーツ振興審議会
開催日時	平成23年6月24日(金) 10時00分～11時25分
開催場所	高松市役所 11階 113会議室
議 題	スポーツ指導者の充実・活用および資質向上について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	野崎会長，城門副会長，長谷川副会長，穴吹委員，七條委員，松本委員，山下委員
傍 聴 者	0 人 (定員 5 人)
担当課および 連絡先	スポーツ振興課 839-2626

会議経過および会議結果

【会議の経過】

(1) 開会

(2) 野崎会長あいさつ

(3) 事務局から会議成立の報告の後，会議の公開について委員会に諮り，審議した結果，公開とすることを決定した。

(4) 議案の「スポーツ指導者の充実・活用および資質向上について」を栗田課長から説明。

委員から意見を聴取した。

項目ごとの主な意見，質疑等は次のとおり。

議 題

議 案

スポーツ指導者の充実・活用および資質向上について

会議経過および会議結果

【A 委員】

前回の審議会は、様々な意見が出て、新しい視野が広がった会議であった。前回審議会の会議録を体系的によくまとめてくれているが、「私は、もっとこんな主張をしている」という人がいれば、意見を述べていただきたい。

また、資料集では、市民スポーツカレッジの現状や県下の研修会のほか、他都市の研修会がまとめられており、その中に松江市民大学のことが書かれている。受講料を7千円徴収しているにも拘らず、多くの参加者がいることはすごいと思う。カヌー等、普段なかなか体験できない講義を取り入れていることも魅力になっているのではないか。

また、答申の文章も作成しないといけないが、その柱になる文章が、次第（Ⅲ）に提案されている。

どの部分からでも良いので、意見をいただきたい。

【B 委員】

講義内容や対象者を考える時に、スポーツにどこまでこだわるのかという問題がある。参加者の間口を広げ、スポーツやレクリエーションをしない人も対象にするのであれば、視点が変わってくると思う。

坂出市で、年間10回、内容も多岐にわたる女性セミナーを開催しており、その中の1講座で講師を務めたが、170人も参加があった。そのセミナーには定員はないが、講座には300人も申し込みがあるそうだ。

参加者が多い理由は、「前回の講座が面白かったから、あなたも行かない？」といった風に、14年間かけて口コミで広がったのが大きいとのこと。坂出市はコミュニティが小さいため口コミが有効であったが、高松市ではどうだろうか。

日帰りのバスツアーや、大学教授の講座、スポーツの講座など、いろいろな内容の講座がある。そのため、スポーツに関心のない人もスポーツの分野に入って来ているが、講座の内容の専門性を高めたら、敷居が高くなり、なかなか参加者が増えない。運動をする人が増え医療費の削減に繋がるといった大きなスパンで考えた時、いろいろな内容の講座を行い、スポーツに関心の薄い人にも参加してもらおうというのも一つの考え方ではないか。

【A 委員】

坂出市での例を挙げていただいた。講座の主催はどこか？

【B 委員】

坂出市教育委員会の社会教育課である。行政主導の研修会で、ここまで大きな会をしていることに関心をもった。受講料は無料である。

【A 委員】

スポーツにどこまでこだわって、カレッジを考えていくか、という御提案だと思う。

会議経過および会議結果

【C 委員】

市民スポーツカレッジの目的は、市民が健康になることなので、タイトルは「こころも体も元気になろう」とか「元気を作ろう」とか「友達も作ろう」というのがよい。また、講義の回数は、多かったら話が広がる一方なので、3回程度にまとめた方がよいのではないか。

【A 委員】

ネーミングや内容について、これまでのスポーツという枠より大きく捉えるようなアプローチで考えてみてはといった御提案であった。

【C 委員】

具体的な対象者を決めてから、講義の内容を決めていけばよいのではないか。

【A 委員】

松江市の場合には、スポーツや文化などのカリキュラムが全10コースからなり、その1つにスポーツがある。

【事務局】

松江市の場合にはスポーツ健康カレッジの中にスポーツコースと健康コースがある。健康コースは、自分で自分の健康管理ができることを目標に講座を開講し、また、継続するためには同じ目的を持つ仲間が存在が必要であることから、グループ活動も行うとある。スポーツと健康づくりでコースを分けている。

【C 委員】

講座をすることによって、無理やり運動をさせている感じがする。運動をさせるのではなくて、健康管理を学び、自発的に運動をするような講座を開いた方がよいのではないか。

【A 委員】

自分で健康管理ができ、おのずと体を動かすような講座があってもよいのではないかという御提案であった。

さて、市民スポーツカレッジの新しいあり方を審議するわけであるが、審議するのは具体的な講義の内容ではなく、市民スポーツカレッジの目的や在り方である。

市民スポーツカレッジのプログラムは、われわれも参加できるのであれば当然協力をするが、審議会で決定するのではなく、行政に任せてもよいのではないか。

今、いくつか御提案いただいたのは、「実際に体を動かすような講座」、「スポーツに関する知識を学べるような講座」、「市民が自分で健康作りができるようになる講座」、「友達作りをする講座」という方向性を示していただいた。他に意見はないか。

【D 委員】

見直し後の方向性を見ても、以前の市民スポーツカレッジと変わらないような印象を受ける。今までのカレッジでは、一般の人が対象ではなくて、～学といった上級のなもの、指導者のものも多く開かれていた。目的が「興味を持った参加者が、更に上級の講座を目指す等、将来の指導者を作るきっかけをつくる」では、今までのカレッジの延長であり、それならば、今までのカレッジのままでよい。スポーツ以外の何かをしたいといった人を取り込むには、そのような目的では取り込めない。

市民が総参加できるイベントとなると、食や、健康的なものも組み合わせるなど、少し視点を変えないといけないが、ネーミングや内容、目的を、どこまで目線を下げるのかが問題である。

既にスポーツをやっている人の中には、指導者を目指す人も多くいるだろうし、高齢者の中には、今までの経験を活かして、さらにグレードアップしたいという人もいるだろうが、今まで運動をしてこなかった人に何かきっかけを与え、運動をしたり、熱中症の予防など、スポーツに関する知識も学んでもらう等、いかにしてスポーツに関心を持たすかが問題である。踏み込んだことをやらないと、従来のカレッジと変わらない。

【A 委員】

これまでスポーツに関心を示さなかった人に対する健康づくりや、スポーツ活動への意識を啓発するという目的もあるのではないかという提案であった。

【E 委員】

多くの市民は、スポーツの定義を、「実際に体を動かすこと」と思っているが、見ることもスポーツである。スポーツ振興基本計画の目標である「成人の週1回以上のスポーツ実施率」というのは、体を動かす人の実施率を上げることが目的だと思うので、実際に体を動かす講座も行い、これもスポーツになるのではないかと思うが、食育等スポーツの知識を学ぶ講座も行う等、体を動かすことだけではなく、それ以外のアプローチでもスポーツに興味を持っていくことが必要である。単にスポーツだけという今までの概念でいくと、従来のカレッジと変わらない。

指導者育成については、高松市体育協会、香川県、日本体育協会等で資格が取れる講習会があるが、一般の方には浸透していない。どのように PR 活動を行うのかという問題があるが、カレッジの中で、資格取得の情報発信もすればよいのではないか。

【A 委員】

新しく市民スポーツカレッジを作り直す際に、どの程度のバリエーションを用意するのかという問題もある。松江市のように、体を動かすスポーツのコースや、健康づくりのコース等、いくつものコースを用意するわけにもいかない。E 委員の意見では、目的の中で指導者養成を強く言った場合、一般の参加者が少なくなり、従来のカレッジと変わらないので、目的を「市民の啓発型」に大きく切り替えてみてはどうかというものであった。

会議経過および会議結果

【B 委員】

講座の内容については、スポーツだけの講座となると間口が狭いため、いろいろなものを軽く混ぜたものにする、スポーツを普段しない人も参加しやすくなるのではないかと。

【A 委員】

スポーツに興味を示さなかった人でも参加しやすいように、健康づくり、食に関する事、文化的な活動等を取り入れた形式も、松江市のカレッジのように、活動や競技の紹介といった入門的な講座の形式も、スポーツの振興を考えると、どちらも良いのではないかと。スポーツ振興のプログラムなので、全部文化的な活動というわけにはいかない。

【事務局】

まつえ市民大学は、スポーツコースの中に、他のコースとの共通科目として食や音楽などの講座があり、スポーツだけではなく、いろいろなジャンルの講座が受けれる仕組みになっている。

【D 委員】

スポーツ立国戦略の中に、スポーツをする人、観る人、支える人という言葉が出てくるが、新しいスポーツ基本法では、支える人について「長寿社会にあって、健康を保持・増進する上で重要な役割を果たすもの」とある。

今までのイメージでは、スポーツ＝競技スポーツであったが、スポーツをやる人だけにスポットを当てるのではなく、する人、観る人、支える人をいかに融合させるか、という様に視点を変えなければならない。今まで通り「指導者を目指す人」に視点に置いていたのでは、また、市民に受け入れられない。

【F 委員】

「上級講座を目指す」というところには抵抗があるが、「指導者を作るきっかけ」は必要ではないかと。講座内容については、実際に体を動かす講座も良いし、スポーツに関する知識を学べる講座についても、救急法は関心が高まっているので、毎回開催して欲しい。

【D 委員】

「上級講座をめざす」となると、上級講座のコースも用意しないといけないのではないかと。上を目指すことは向上心もあっていいことだが、高松で上級講座のコースが作れないとなると、他に行ってくれ、となり、それは酷だ。

【F 委員】

上級講座は県に任せればよいと思う。リーダーバンクもそういう形になっている。

会議経過および会議結果

【事務局】

事務局としては、例に挙げた松江市のように、新しいスポーツやスポーツ以外の講座も含めたものをイメージしている。

【C 委員】

上級講座は、作るのではなく、自然に発生するのではないか。上級の講座を学びたいという参加者が集まってグループをつくり、講師をよんで発展していくという想像をしている。

【A 委員】

講座に参加し、その後の活動の場所は、参加者自ら作るということだと思う。講座を受けた後に、参加者が活動できる場所を用意できないものか。

【C 委員】

コミュニティスポーツ協議会の指導者は、20数年来、自発的に活動されており、教え方も上手で、参加者がどんどん増えていて、すごい。

【A 委員】

コミュニティスポーツ協議会の指導者は、元々、高松市の講座を受けて集まった仲間のようなのだ。

【C 委員】

高松市は広いので、同じ講座を数箇所で行えばよいのではないか。

【A 委員】

市民スポーツカレッジは参加者が非常に少なかったのに対し、松江市のカレッジは、7千円の参加費を払ってでも参加したいという人が50人、60人と集まっている。まず、そのような講座を作りたいというのが基本にあり、そのようなプログラムの内容を作ることが第1段階だと思う。その次に、もっと発展するために、会場を増やしたり、回数を増やしたりということを考えればよい。

【C 委員】

一般の感覚では7千円は安いと思う。松江市のカレッジは何年目なのか。何歳くらいの人が受けているのか。開催は何曜日なのか。

【A 委員】

水曜日の夜である。

【C 委員】

松江市は高松市に比べ、遊ぶところが少なく、また、高松市では、民間も含め、スポーツ教室がたくさんあるため、松江市のカレッジをそのまま高松市で開催しても、同じくらいの参加者は見込めないのではないか。7千円を払ってでも参加者が集まるようになるためには、呼びかけの内容次第ではないか。

会議経過および会議結果

【A 委員】

市民スポーツカレッジの PR 方法を考え直す必要もある。

【事務局】

松江市と同内容の講座ができるのかどうか，まだ本格的に検討はしていないが，どのようなやり方ができるのかは今後検討していく。

市民スポーツカレッジの方向性を審議会で審議していただき，講座の内容，開催場所，回数等，具体的なものは，その後検討していく予定である。松江市のカレッジをそのまま開催しようというわけではない。

【F 委員】

門戸が大きく広がるので，参加者は増えるのではないか。また，場所を変えて開催するのも一つの方法である。

【G 委員】

カレッジに参加する大半の人は，公共交通機関を使用せず，車を使用するため，広い駐車場のあるコミュニティを会場として活用すればよいのではないか。

また，震災の関係で，自主防災の機運も高まっており，救急法やテーピング，食の問題なども講座の一部として考えてみてはどうか。また，上級の講座を目指すことを講座の目的とすると，親しみやすいネーミングにはならないのではないか。

【A 委員】

松江市のカレッジを参考にして，スポーツにこだわらない講義内容で，対象者も「普段スポーツしない人」も含める等，新たに裾野を広げるとい方向性で作り変えていくことには，皆さん基本的に賛成だと思う。

その中で意見があったのが，「目的の内容を検討して欲しい」，「講座の内容として健康づくり等の内容を取り入れて欲しい」，「ネーミングについては，明るく健康的なものが良いが，「スポーツ」という言葉を外してよいものか」という意見があった。「スポーツ」と付いただけで敬遠する人もいるが，スポーツ振興課のプログラムとして，ネーミングから「スポーツ」を外しても良いのか。

【F 委員】

健康に関心がある人が多いので，健康というのをつけたらどうか。

【C 委員】

「スポーツ」は外さないでおきたい。これからの生活について考えると不安だが，みんなで助け合って，そのための智慧や知識を学びあうところのスポーツ，というような意味合いのネーミングを考えてもらいたい。

会議経過および会議結果

【D 委員】

目的の（３）成人の週１回以上のスポーツ実施率の増加を図る，というところで，「市民の健康増進を図る」とか，「市民の健康増進に寄与する」といった言葉を入れたほうが，単にスポーツをやっている人だけを対象としているのではないという意味が出てきてよいのではないか。

上級の講座を目指すのも大事だし，将来の指導者を育てるのも大事である。スポーツ立国戦略では，人の活用の中で，支える人として，地域の指導者を育成する，また，トップリーグを引退した選手が地域に出向き，地域で更なる指導者を育成するといった指導者育成を目標にしている部分もあるが，カレッジでそこまで求める必要はないと思う。

ネーミングに「健康」という文言が入るとなると，市民スポーツカレッジの目的に，「スポーツ」だけではなく，「市民の健康増進を図る」という文言を入れていかないと，整合性が取れない。

また，カレッジの内容は，スポーツコースと健康コースに分けて，どちらも受講できるようにすればよいのではないか。松江市の例を見ると，ほとんどがスポーツの関係の講座である。

松江市のような「スポーツ健康カレッジ」という大きなネーミングではなく，もう少しシンプルなネーミングにして，内容によって受講するコースが分かれているものが良いのではないか。

スポーツだけでは市民に受け入れられないと思うので，どこかに，「市民の健康増進」という文言を入れた方がよいのではないか。

【A 委員】

市民スポーツカレッジでは，スポーツ立国戦略に書かれている内容をすべて反映させるのではなく，スポーツ振興課でやらなくてはならない内容のうち，どの部分を担うのかをはっきりさせ，構想していく必要がある。

【B 委員】

話は変わるが，ケーブルテレビで高松市の情報をよく流している。情報伝達の方法として利用してみてもどうか。

【A 委員】

広報の媒体によって，繋がる層も変わってくる。

魅力的なプログラムを作るために，委員も意見を述べるだけではなく，しっかり協力していきたいと思う。次回審議会では，答申案を実際に文言として作成していかなければならない。